



IMMORTAL MAGAZINE

vol.06 / APRIL 2020





Re:Fresh!!

撮り下ろしグラビアからスタート！この日は雲ひとつない最高の撮影日和。鎌倉坂ノ下にあるアジアンカフェ『Ice kitchen』とアパレルショップ『Urban Island Society Japan』で春らしい日差しが感じられる写真が撮れたよ。とても美味しいガパオライスとアサイースムージーを頂いて、気持ち良いランチタイムでした。夕方には横浜中華街をブラブラ。子供の頃から足を運んでいる街だけど、その時によって食べ物のブームも変わっているから、いつ行っても新鮮で楽しいね。夕陽がとても綺麗でいつもよりメロウに時間が流れている気がした。忙しい毎日から、ホッとする休日の暖かいひと時を過ごして心も身体も癒されたよ。

撮影協力：“Ice kitchen” insta_@sakanoshita_icekitchen “Urban Island Society Japan” insta_@urbanislandsocietyjapan
PHOTOGRAPH: TAKAFUMI IDE





URBAN
ISLAND SOCIETY









FAN MEETING REPORT

『Junnosuke Taguchi official FAN meeting 2019 -COSMOS CITY-』
2019.12.03 (TUE) @morph-tokyo

SET LIST

01. Voices Intro
02. Voices
03. Never Lose My Vibe
04. Lofty Dream Intro
05. Lofty Dream
06. Calling
07. Aste Intro
08. Make U Bounce
09. Dear Honey
10. Sunrise
11. FLY
12. Atmosphere
13. No Limit
14. Bounty Hunter Intro
15. Bounty Hunter
16. Time 2 Move On
17. Good Day
18. Satellite
- EN1. Connect

SPECIAL GUEST: DAZZ, AsteRisM, DJ SHIMOTAKU, KIRA



東京・六本木の morph-tokyo で開催された『Junnosuke Taguchi official FAN meeting 2019 -COSMOS CITY-』。新曲「Voices」からスタートしたライブはアンコールを含め全 19 曲。磨きかけたダンスとヴォーカルで今の思いを伝えた。盟友 DAZZ、7人組ダンス&ボーカルグループの AsteRisM と共演、DJ 下拓、KIRA も映像で登場し息のあったパフォーマンスで会場を盛り上げた。

『きょうは自分にとって再始動の一発目。はじめの一步は、みんなと歩みたいと思ったので、この場を設けられたことはありがたいなと思う。来てくれたみなさん、ありがとうございます。俺には、これしかなかった。自分の歌とパフォーマンスを届けることが使命だと思っている。俺自身は変わらない。みんなが、受け入れてくれるなら、すごくうれしいなと思う。身勝手かもしれない。俺は俺で、みんなに伝えていければいいなと思う。これから新しい田口淳之介として一步を進んでいく。その姿を見ていただけたら』







JT KICK CHALLENGE

お決まりの (!?) チャレンジ企画、今回はラグビーです。友人であり元プロラグビー選手、現在はアジアで唯一のプロキックコーチである君島良夫氏 (Japan Elite Kicking 代表) と、その仲間現役ラグーマンたちにご協力いただき実現。寒いながらもよく晴れた日、この日のために揃えたおニューのウェアでグラウンドに現れた JT はやる気に満ち溢れていました。以前からラグビー好きで (見る専門で知識豊富)、いつか体験したいと思っていたラグビー、2019 年のワールドカップの興奮でその思いはピークに。そんな中ついに念願叶った今回のチャレンジ。そのイメージと実際のパフォーマンスは一致するのか。。。

PHOTOGRAPH: TAKAFUMI IDE TEXT: MATSU P



TALK SESSION

- 実際ラグビーのレッスンを受けてみて

(当日練習メニュー：パス、タックル、ハイボールキャッチ、ペナルティキック)

Junnosuke (以下、J)：始めてやってみて運動量は相当なものだね。久々にここまで外で動いたよ。天気も良くてめちゃくちゃきもちよかった。

Yoshio (以下、Y)：何が一番楽しかった？

J：やっぱりパスかな。4人並んでのパス交換は楽しかった。後ろにいなきゃいけないし、回転かけなきゃいけないし。。。見ているのは全然違って難しかったけど、チームワークを感じられた、パスひとつ通すにしても思いやりがないとできないよね。

Y：ほんとそう。最後の方はコツ掴んでスクリュウかかってたもんね。

J：あとはやっぱりタックルかな。思ったより恐怖心なくイケたし、行っただけで！気持ちになったね。受ける方はやっぱり止められなかったけど。。。。

Y：完全に体浮いてたもんね。俺もサッカー出身だから、最初はボディコンタクトに慣れるのには時間がかかった。最後まであんまり好きじゃなかったな(笑)

最後はちょっとむずかしいところのキックチャレンジだったけど、見事なゴールを決めて終えたね。

J：キックはさ、実は最初から結構やれるんじゃないかと思ってたの。最後のゴールは意地。やっぱり負けず嫌いだからね、決めるまではやめられなかったよ。。。 (実はキックで親指の爪が割れていたらしい)

- 二人の出会い？

J：よしおくと出会ったのは、7~8年くらい前かな。友達に誘われて初めてラグビーを見に行った秩父宮で。初めて見た試合がよしおくんの試合なんだよね。ルールはよくわからなかったけど迫力がすごかったのを覚えている。人と人がぶつかり合う音がこんなにすごいんだって。。。日本のラグビー熱が今ほど高くなかった頃だよな。

Y：そうだね。俺が現役バリバリで脂が乗ってた時期(笑)。知り合いと一緒に来ているっていうのは聞いていて、試合後に挨拶に行った時に「あ、ホンモノだ！」って思ったの覚えている。

J：あれからハマってさ、まずルールブック買ったよね。その後はご飯行ったり、トレーニングを教してもらったりよく遊んだよね。よしおくんが海外に移籍したりで間が空く時期はあったけど。でも実はさ、それよりも前に俺の出てる舞台に見に来てたことがあったって発覚したんだよね！お母さんがファンだったらしく、一緒に舞台出た人の(笑)

- アジア唯一のキック専門コーチ

J：よしおくんはやっぱり教えるのうまいよね。なんでキックのコーチ始めようと思ったの？

Y：自分が選手としてラグビー続けてきて、日本でキックをしっかりと学んだことは一度もなかったの。コーチや先輩たちの経験からくるアドバイスはあったけど、教科書みたいにしっかりとしたものとは全くなくて。オーストラリアでプレーしていた時、チームにキック専門のコーチがいたんだよね。その指導を受けて自分はまだまだうまくなるなと感じたのがきっかけかな。その後、日本に戻ってプレーを経て、自分が引退を考えたときに、キックのコーチやりたいな、ってのがどこかにあったの。まずは選手しながら初めてみたんだけど、すぐに「これはイケる」って手応えを感じた。その後いろいろところにアプローチをかけることから始めて、徐々に声をかけてもらえるようになってきた感じだね。で、引退後の2017年にJapan Elite Kickingを立ち上げた。

J：幅広い年齢の人に教えているけど、やっぱり子供に教えるのは楽しい？

Y：そうだね。選手の時に応援してくれていた子がしばらく会わないうちにすごい大きくなっていて、キック教えてくださいなんて言われたらうれしいよね。体も大きくなっているし、めちゃくちゃうまくってきているの。今はそういうのすごく面白くて楽しんでいるよ。

J：俺も今後輩の育成とかしているからすごくわかるよ。やっぱり今までしてきた経験は宝だね。その場所に立ったことでわからないもの、そういうのをこれから人にも伝えて行きたいと思っている。

Y：日本のスポーツは部活が中心だから、先生が生徒に一方的に教えるというのがどうしても主流になってしまっているよね。でも本来スポーツの世界では、もっと自由にお互いの主張を混ぜていいものを作っていき、そこからお互い学んでいく。それがあべき姿だと思う。Japan Elite Kickingの活動を通して、そういった環境の理解、実践も広げていきたいと考えている。

J：日本のラグビーは今後どうなるのかな？

Y：世界で見れば3大W杯にもあげられるほど競技人口は多くて大きなスポーツだけど、日本で的人气もやっと上がってきたからこれはキープしていきたいよね。そういう意味でも今回のW杯は大きかったし、オリンピックにも期待したい。そういうイベントは大事だと思うね。

J：こうやってラグビーを経験する機会がもっと増やせたらいいよね。俺みたいな大人でも初めてやってみてすごく楽しかったし、いい運動になったよ。

Y：大人になってあんな地面に寝っ転がることそうそうあることじゃない、それも意外と楽しいよね。

J：またやりたい。

実は二人とも出会った頃の写真を携帯に保管していたことが発覚、それは時の流れを感じるものでした(笑)。そちらは編集後記をお楽しみに。



MY FAVORITE GOODS SHOW



\ マグカップ /

ポーランドで有名な陶器ブランドのマグカップ。柄が一点一点違うところや、お洒落で可愛いデザインがお気に入り。これはプレゼントで頂いたんだけど、お皿も持っていてコレクションしたくなるね。



\ メガネ /

久しぶりに新調。珍しく金縁のメガネを作ってみたよ。大人っぽい洋服に合わせられるし、掛け心地も軽いから気持ち良いよ。



\ Book /

オンデマンドでハマって観ていた『水曜日』のディレクター藤村忠寿さん著者の本。『水曜日』の裏話がファンとしては楽しいし、番組や組織の育て方など、とても勉強になったよ。



\ 洗濯用マグネシウムバッグ /

超便利グッズ！洗濯物と一緒に回すだけで洗濯洗剤が必要ないんだよ。肌にも地球環境にも優しいからみんなもぜひ使って欲しいな。



\ Immortal オリジナルTシャツ /

新作ロングスリーブTシャツ。ユニセックスに着られて、インパクトが強いプリント。今回のデザインほんとに好き！



\ ノドスプレー /

マヌカハニーとカモミールの成分をオーガニック素材でブレンドした、喉に優しいスプレー。レコーディング前や、ちょっと喉に違和感がある時に使うとすっきりして良い感じ。

EDITOR'S REVIEW



編集後記

Immortal Magazine vol.6 大変お待たせしました。遅くなってゴメンネ。

今号のテーマは『リフレッシュ』という事で、色々リニューアルしました。WEB 会報は場所を選ばずどこでも見れるし、好きなカットをスクショして壁紙にも出来るしね。ページの制限も無いので写真を多く使えるから、泣く泣くボツって事も無いのは嬉しい。ぜひパソコンの大きい画面でも見てみてね。

この半年は俺的には本当にまっさらな中、土台づくりに一生懸命になった期間だったかな。再スタートのファンミでは沢山の方が集まってくれて、集合写真でみんなの笑顔が見れて本当に良かった。この日の為に準備して全力を出したステージだったから、こうやって振り返ってみると感慨深いね。でもほんの4ヶ月前と思うと、今はこの短い期間にもっと成長した気がする。これからもステージフォトは成長記録として掲載していこうと思います。

チャレンジ企画としてはずっと挑戦したかった『ラグビー』を、ヨシオ君とやれてすごく楽しかった。見るのも好きだけど実際に体験したくて。でも人が集まらないと出来ないスポーツだからさ。そんな中、協力してくれる友達やグラウンドまで手配してくれて、教えるのもめちゃ上手で。すぐにスクリュースパスが出来るようになって感動した。写真だけじゃ伝わらないかもだけど、一気に上達してラグビーの楽しさを存分に感じたよ！いつかフルメンバーで試合してみたいな。協力してくれた皆さんに感謝。

次号は9月頃を予定してます。お楽しみに！

Immortal Magazine 編集長 田口 淳之介